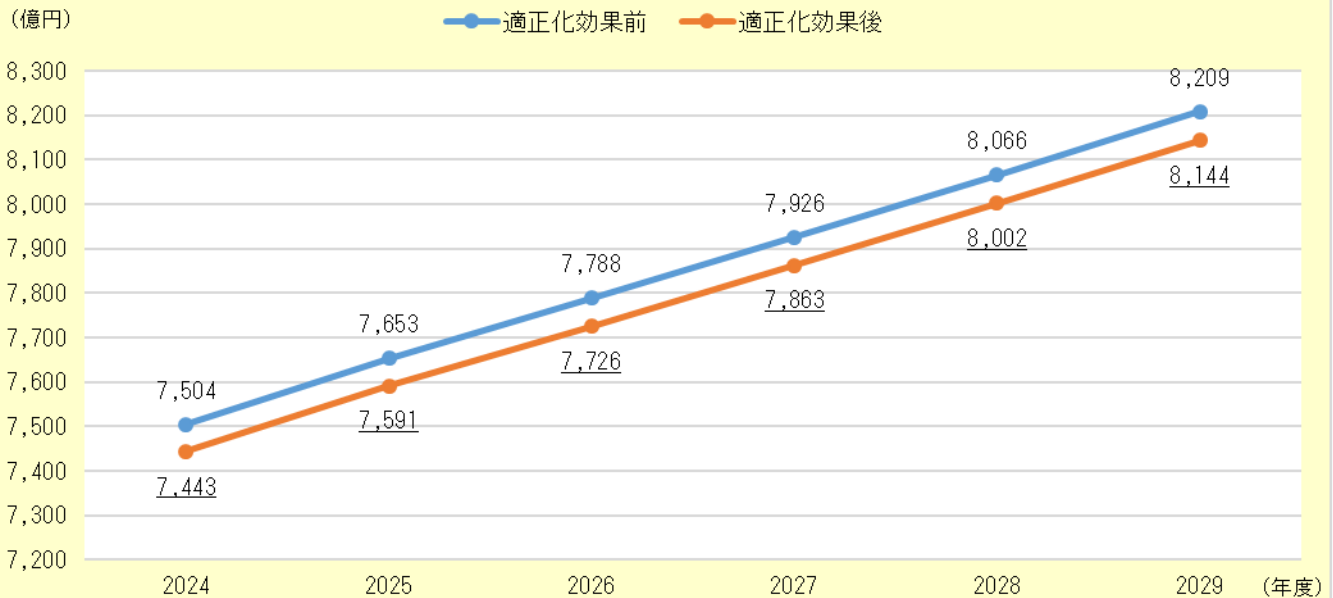


(3) 岡山県の将来医療費

岡山県の将来医療費は、適正化計画の効果前では令和 11（2029）年度に約 8,209 億円に増加すると見込まれます。医療費適正化の効果を踏まえて推計すると、令和 11（2029）年度に約 8,144 億円となり約 65 億円の縮減効果が見込まれます。

なお、この効果額については入院外医療費の効果額についてのみ反映しています。

図5-1 第4期岡山県医療費適正化計画による総医療費の推計
(岡山県)



入院医療費については、病床機能の分化及び推進の成果という形で適正化の効果前の額にすでに入った形で推計されています。

また、効果額の内訳としては、後発医薬品の普及にかかる額が最も大きな割合を占めており、令和 11（2029）年度においては約 22 億円の効果が見込まれます。

表5-1 (億円)

	2024	2025	2026	2027	2028	2029
病床機能の分化及び連携の推進の成果	3,139.9	3,215.6	3,287.7	3,361.3	3,436.6	3,513.4
自然体の医療の見込み（入院外+歯科）	4,364.4	4,437.5	4,500.6	4,564.7	4,629.7	4,695.6
効果額						
特定検診等の実施率の達成	▲ 1.32	▲ 1.34	▲ 1.36	▲ 1.38	▲ 1.40	▲ 1.42
生活習慣病（糖尿病）に関する重症化予防の取組	▲ 10.63	▲ 10.80	▲ 10.94	▲ 11.09	▲ 11.24	▲ 11.39
後発医薬品の普及	▲ 20.02	▲ 20.34	▲ 20.61	▲ 20.89	▲ 21.17	▲ 21.45
重複投薬の適正化	▲ 0.06	▲ 0.07	▲ 0.07	▲ 0.07	▲ 0.07	▲ 0.07
複数種類医薬品の適正化	▲ 14.17	▲ 14.40	▲ 14.59	▲ 14.79	▲ 14.98	▲ 15.18
急性気道感染症の抗菌薬の適正化	▲ 3.02	▲ 3.06	▲ 3.10	▲ 3.15	▲ 3.19	▲ 3.23
急性下痢症の抗菌薬の適正化	▲ 0.62	▲ 0.63	▲ 0.64	▲ 0.65	▲ 0.66	▲ 0.66
白内障の適正化	▲ 0.27	▲ 0.28	▲ 0.28	▲ 0.28	▲ 0.29	▲ 0.29
薬物療法の適正化	▲ 0.80	▲ 0.81	▲ 0.82	▲ 0.83	▲ 0.84	▲ 0.86
バイオシミラーの適正化	▲ 9.89	▲ 10.04	▲ 10.18	▲ 10.31	▲ 10.45	▲ 10.59
医療費の見込み（適正化効果後）	7,443.5	7,591.3	7,725.8	7,862.6	8,001.9	8,143.8

令和 11（2029）年度における岡山県の市町村国民健康保険及び後期高齢者医療制度の 1 人当たり保険料について医療費適正化の効果を踏まえて推計すると、市町村国民健康保険で 7,359 円、後期高齢者医療制度で 7,979 円と見込まれます。

表5-2

(円)

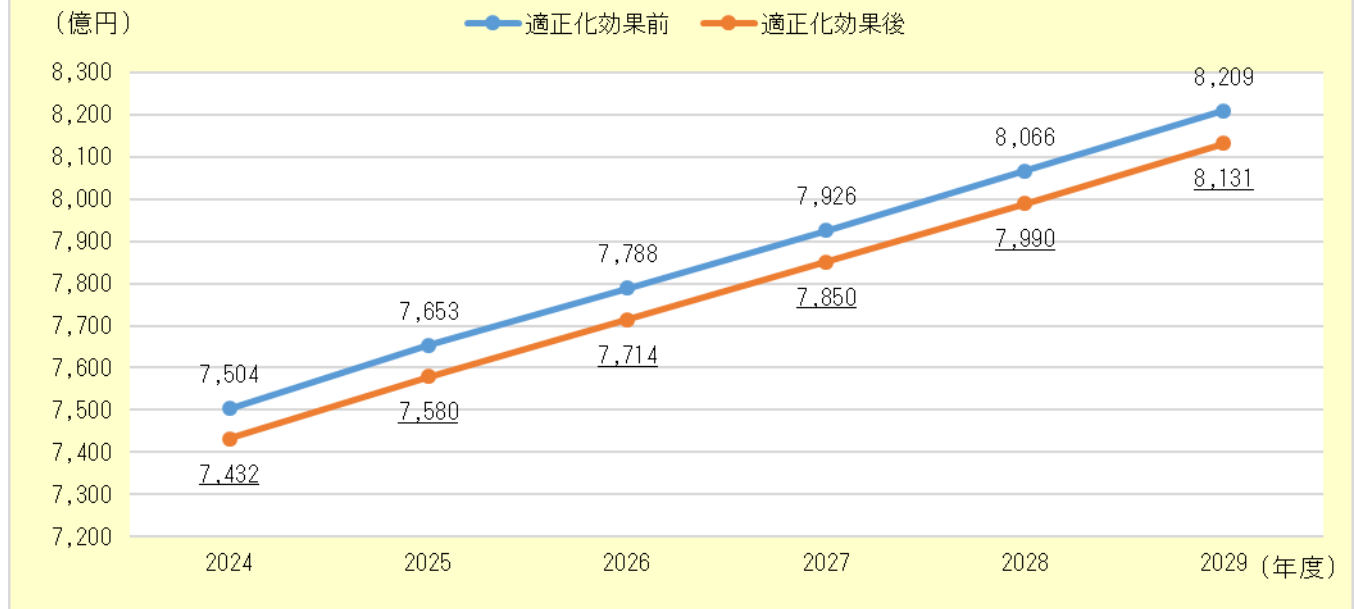
	令和11(2029)年度 1人当たり保険料	
	医療費適正化前	医療費適正化後
市町村国民健康保険	7,418	<u>7,359</u>
後期高齢者医療制度	8,042	<u>7,979</u>

岡山県の将来医療費

岡山県の将来医療費は、適正化計画の効果前では令和 11（2029）年度に約 8,209 億円に増加すると見込まれます。医療費適正化の効果を踏まえて推計すると、令和 11（2029）年度に約 8,131 億円となり約 78 億円の縮減効果が見込まれます。

なお、この効果額については入院外医療費の効果額についてのみ反映しています。

第 4 期岡山県医療費適正化計画による総医療費の推計
（岡山県）



入院医療費については、病床機能の分化及び推進の成果という形で適正化の効果前の額にすでに入った形で推計されています。

また、効果額の内訳としては、後発医薬品の普及にかかる額が最も大きな割合を占めており、令和 11（2029）年度においては、約 34 億円の効果が見込まれます。

		(億円)					
		2024	2025	2026	2027	2028	2029
病床機能の分化及び連携の推進の成果		3,139.9	3,215.6	3,287.7	3,361.3	3,436.6	3,513.4
自然体の医療の見込み（入院外+歯科）		4,364.4	4,437.5	4,500.6	4,564.7	4,629.7	4,695.6
効果額	特定検診等の実施率の達成	▲ 1.32	▲ 1.34	▲ 1.36	▲ 1.38	▲ 1.40	▲ 1.42
	生活習慣病（糖尿病）に関する重症化予防の取組	▲ 10.63	▲ 10.80	▲ 10.94	▲ 11.09	▲ 11.24	▲ 11.39
	後発医薬品の普及	▲ 31.67	▲ 32.18	▲ 32.61	▲ 33.04	▲ 33.49	▲ 33.94
	重複投薬の適正化	▲ 0.06	▲ 0.07	▲ 0.07	▲ 0.07	▲ 0.07	▲ 0.07
	複数種類医薬品の適正化	▲ 14.17	▲ 14.40	▲ 14.59	▲ 14.79	▲ 14.98	▲ 15.18
	急性気道感染症の抗菌薬の適正化	▲ 3.02	▲ 3.06	▲ 3.10	▲ 3.15	▲ 3.19	▲ 3.23
	急性下痢症の抗菌薬の適正化	▲ 0.62	▲ 0.63	▲ 0.64	▲ 0.65	▲ 0.66	▲ 0.66
	白内障の適正化	▲ 0.27	▲ 0.28	▲ 0.28	▲ 0.28	▲ 0.29	▲ 0.29
	薬物療法の適正化	▲ 0.80	▲ 0.81	▲ 0.82	▲ 0.83	▲ 0.84	▲ 0.86
	バイオシミラーの適正化	▲ 9.89	▲ 10.04	▲ 10.18	▲ 10.31	▲ 10.45	▲ 10.59
医療費の見込み（適正化効果後）		7,431.8	7,579.5	7,713.8	7,850.5	7,989.6	8,131.3

令和 11（2029）年度における岡山県の市町村国民健康保険及び後期高齢者医療制度の 1 人当たり保険料について医療費適正化の効果を踏まえて推計すると、市町村国民健康保険で 7,348 円、後期高齢者医療制度で 7,967 円と見込まれます。

	令和11(2029)年度 1 人当たり保険料	
	医療費適正化前	医療費適正化後
市町村国民健康保険	7,418	<u>7,348</u>
後期高齢者医療制度	8,042	<u>7,967</u>